

会 議 録

会議名	令和7年度第4回 知立市文化芸術推進会議
-----	-------------------------

令和8年1月22日	開催場所	知立市図書館2階視聴覚室 14時～15時30分
出席者・委員	清水裕之、宇納一公、近藤博子、栗林昌弘、中石環、吉富靖、永井淳子、藤澤幸兄、越智さや香、岡松良典、田原園子、牧保博 (三宅隆弘 委員、加藤愛 委員、David Hunt 委員は欠席) (敬称略)	
事務局	宇野教育長、市川教育部長、河合文化課長、 近藤文化課長補佐兼文化振興係長、水谷主査	
<p>1. あいさつ</p> <p>2. 議事</p> <p>「知立市文化芸術推進基本計画の中間見直しについて」</p> <p>(事務局からの説明)</p> <ul style="list-style-type: none">・前回会議で検討事項とされたことや、委員からの意見等に対する対応について説明を実施。 <p>検討事項</p> <p>「中間評価の成果物の形式について、改訂案とするか中間報告書とするか」を検討する。</p> <p>検討事項に対する結果</p> <p>資料2 中間報告書の形式とした。</p> <p>委員からの意見等</p> <p>成果物の概要版を作成したり、アンケート結果を分かりやすく公表した方がよい。</p> <p>委員からの意見等に対する対応</p> <p>資料3 中間報告書（概要版）を作成した。アンケート結果については、この中間報告書（概要版）の中の1ページを使い、分かりやすく表記するよう努めた。</p> <p>(事務局からの説明)</p> <p>資料2 中間報告書の説明を実施。</p> <ul style="list-style-type: none">・報告書は、2章立てとし、最後に資料編をつける構成とした。・報告内容については、第3回の推進会議でご提示をした改訂案と同じ内容となる。・ただし、一部表現や、参照元ページ数の修正は行っている。 <p>資料3 中間報告書（概要版）の説明を実施。</p> <ul style="list-style-type: none">・両面刷り1枚（A3）に収まるように資料2 中間報告書の内容を圧縮した。・見開き片側1ページをアンケート調査結果に関する内容にし、グラフも取り入れた。		

(委員からの質疑応答)

【委員】資料編の中に、文化芸術基本条例の記載があります。もし可能であれば、この条例に対して意見をさせていただきたいと思います。資料2(中間報告書)の21ページに文化芸術基本条例第2条の中に、多文化共生の記載があります。多文化共生という言葉の定義について、知立市では、多文化共生推進プランの中で定義をしていますが、文化芸術基本条例の表記とかい離があります。統一した方がいいのではないかと思います。

参考1:多文化共生推進プラン(2ページ)の多文化共生の定義

「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」

参考2:文化芸術基本条例の多文化共生の定義

「国籍、民族等の異なる人々が、互いの文化の違いを認め合い、地域社会の構成員として共に生きていくこと」

【委員】「対等な関係を築こうとしながら、」という一文が抜けているということですね。本日の議題としては、文化芸術推進基本計画の中間評価となりますので、本日の会議を通じて修正を行うことは難しいと思いますが、事務局において記録に残していただき、条例を改正する際に、検討をお願いしたいと思います。

2. 報告

「令和6年度事業実績報告」について

市内文化芸術関連団体から特徴的な事業について報告を行った。

【知立市】(事務局)

「市史の編さんと活用」について説明をさせていただきます。

令和6年度に「ジオラマの作成」という項目を記載させていただきました。これまでも資料館にはジオラマを展示していましたが、開館当初より使用しているジオラマであり、展示内容の更新が課題となっておりました。昨年度は、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、ジオラマの作成に取り組み、今年度の4月から資料館2階で公開をはじめました。新しいジオラマでは、知立市の地形を立体的に表現したジオラマに、映像を投影する、プロジェクションマッピングを採用しており、知立市の特徴的な歴史、文化を分かりやすく紹介をすることができるようになりました。

知立市小中学生百人一首練習会・大会について説明をさせていただきます。

この大会の開催の経緯としましては、文化協会に加盟をしていました「百葉会」と呼ばれる百人一首愛好家の団体が、子どもたちが百人一首に親しむ機会を設けようと学校に働きかけを行ったことがきっかけです。市内の学校へ百人一首が浸透した結果、学校間をまたいだ知立市小中学生百人一首大会の実施に結びつきました。

新型コロナウイルスの感染拡大の予防措置として令和3年度、令和4年度の2年間、開催を中断しておりましたが、令和5年度に再開をし、令和6年度も引き続き開催をすることができました。

現在は学校の負担軽減のため、学校ぐるみで百人一首に取り組む機会がなくなってしまったことにより、残念ながら、参加人数が大きく減少してしまい、苦境に立たされています。しかしながら、個人戦や団体戦の区分けの導入や参加要件の見直しにより、参加のしやすい環境へ改善を試みております。確認シートでは令和6年度の参加者数は17名となっていますが、本年度の大会では、55名の子どもたちの参加がありました。今後も、改善を図っていきたいと考えております。

【委員】【ちりゅう芸術創造協会（パティオ池鯉鮒）】

パティオ池鯉鮒は2000年7月1日に開館をし、本年度は特に25周年ということで、力を入れて事業を実施しているところです。また、文化芸術推進基本計画につきましては、施策に基づいて、様々な事業を展開しており、本日は、特徴的な事業についてご報告をさせていただきたいと思っております。

文化芸術推進基本計画の重要施策の中に「子どもが様々な文化芸術に親しむことができるまち」という項目がございます。「子ども」というキーワードは私共も重視をしており、親子をターゲットにしたコンサートや、あかちゃんひろばなどを展開しています。本年度におきましては、25周年を記念しまして、滑り台型のクッションマットを市に寄附し、ロビーに設置をしました。従来から同様の器具は置いてあったのですが、老朽化が進んでおり、安全の面からも入れ替えが必要だと感じておりました。25周年を機に、新調し、子どもたちの“あそび場”として楽しんでいただけるようになりました。施設としては、文化芸術に親しんでいただくということを目的としたいところですが、文化芸術に触れるきっかけづくりとして、この“あそび場”が機能すればいいなと考えております。

続いて、資料5の重点施策に関する事業の報告をさせていただきます。資料5の2ページに「知立の山車文楽とからくりの継承・活用」が重要施策として記載されています。知立市にとって「山車文楽とからくり」は重要な資源であります。パティオ池鯉鮒では、中学生を招いた鑑賞の機会を毎年設けております。これに加え、今回は、昨年度と今年度の2か年にわたる事業となりますが、5年ぶりに市民劇を実施しました。市民のみなさんが集まって、市民のみなさんで作り上げる市民劇ですが、1年目に殺陣（たて・身体、武器を使った演技）講座を行いました。殺陣（たて）を行う方は、山車文楽を見たことがない方が多く、ぜひとも知っていただきたいとの思いから今年（2年目）は山車文楽の鑑賞を企画しました。一連の事業は「ちりゅう大好きプロジェクト」と名付けておりますが、知立を知っていただく良い機会となりましたので、紹介をさせていただきました。

続いて、重点施策の「障がい者の文化活動の機会の充実」であります。パティオ池鯉鮒を会場に草の根フェスティバルを実施させていただいております。

最後に、重点施策の「多様な情報発信」について報告をいたします。パティオ池鯉鮒でどんなイベントが行われているか知っていただくことはとても大切なことだと考えています。去年、印象的だったことは、この計画の中間評価の際に実施したアンケート調査でした。LINEによるアンケート調査に800名もの方の回答が得られていたことは、驚きで、発信の仕方について考えさせられました。一方で、手に取れる紙のチラシもやはり重要だと思っています。25周年の取り組みとして、チラシを置く棚を倍増させました。現在では県下で一番、文化芸術情報で溢れているコーナーになったと思います。パティオに行けば、近隣も含めて新しい情報に触れられるように環境を整えていきたいと思っております。

【委員】【文化協会】

本日は資料として「ちりふ文化 第177号」を配布しました。先ほど情報発信が話題となりましたが、この「ちりふ文化」が我々にとっての情報発信のツールです。今回の記事では文化賞等の受賞者を特集しており、この会場におられます宇納委員が文化賞を受賞されました。

文化協会のスローガンは、「地域の文化芸術を育み、個々人の居場所、自分らしさ、明日への活力を紡ぐ文化協会」です。また「つどい花咲く文化協会」を合言葉としています。当会は美術部門、創作部門、芸術部門、茶華道部門の大きく4つの部門で構成されており、会員数は938名で、106の部会を持っています。

ここで、令和7年度で、特に特徴があった事業について紹介をさせていただきます。文化賞の受賞式の後、例年であれば講演会を実施していますが、今年度は5年ごとの周年行事として、文化協会会員による公演を行いました。内容については、会員の手作り脚本による「大人の学芸会」をコンセプトに、知立に来た外国人に、知立の文化に触れてもらうストーリー仕立てとしました。行事全体は「よいとこ池鯉鮒、魅せまSHOWTIME」と名づけており、文化協会の各部会が順番に演技を披露し、知立の魅力を発信し、司会と外国人役の二人が、軽快な三河弁トークで、場面を展開していきました。文化協会の各部会が結集し、知恵を出し合い、磨き上げ、一味違う文化協会を感じていただける内容になったと思います。

出演者やスタッフは総勢200人、異なる分野、部会と交流する機会にもなり、会員間の絆づくりによって文化協会の活性化も図れたと思います。

豊かな歴史を持ち、先人たちの培ってきた文化、伝統、芸術は各計画において地域の資源となり、魅力を高める、まちづくりの鍵だと考えています。知立市文化芸術推進基本計画の理念をもとに、基本施策、重点施策を踏まえ、今後の活動を展開していきたいと思います。

【リリオコンサートホール】

欠席のため、資料によって確認

【委員】【知立市観光ガイドボランティアの会】

新たに取り組みをはじめました「ちりゅうキッズ発信隊」について紹介をさせていただきたいと思います。

(資料1/7ページ)

はじめに、観光ボランティアの会の紹介をさせていただきます。現在20名で活動をしており、知立を来訪される方にご案内をさせていただいています。

(資料2/7ページ)

最近では学校からの依頼が増えてきました。子どもたちを近くの史跡に案内したりだとか、教室で出前講座をしたりしております。本日は、もう一つ資料を準備しており、「かきつばたまつり、花しょうぶまつり、どうして知立にあるの!」と書かれた資料を配布しました。この資料で出前講座をしました。本日は、お時間もございませんので、内容の説明は省きますが、大人でも知らないような内容も含まれていると思いますので、お時間のある際にご覧いただきたいと思います。

学校からの依頼で活動する中で、2点思うことがありました。1点目は地元、知立のことを学ぶ機会をもっと提供できればということをおもいました。2点目は学年間でつながりをもって下の世代の子ど

もたちに継承していく場があるとさらに良いと思いました。

(資料 3/7 ページ)

そこで、はじめたのが「ちりゅうキッズ発信隊」です。活動のねらいですが、かきつばた、花しょうぶまつりに興味を持つ子どもたちと、継続的に交流し、地域の伝統や文化を伝達する場を提供したい、知立の未来を担う人材を育てたいという意図で実施をしています。

募集に際しては、チラシを1000枚ほど準備し、図書館や学校で配布をさせていただきました。

主な活動内容としては毎月、花の様子を観察して、最後に発表をすることを想定しています。

また、花を育てるだけでなく、花を通じて、知立の歴史や、知立とのつながりを学習しながら、折り紙やしめ縄づくりなど、子どもたちが飽きないように工夫をできればと思っています。

先日、初回の活動を行いました。その内容が、このページの一番下に書かれています。

(資料 4/7 ページ)

初回の活動の様子ですが、このページに写真を載せさせていただきました。チラシをたくさん配りましたが、参加は1家族でした。少ないように思いますが、0ではなく1だったことに意義がありますし、これから広げていければと思っています。

ページの下に担当するスタッフのイラストを載せさせていただきました。お分かりかと思いますがAIで作成をしています。3人で担当していますが、活動中に子どもたちに何かあっても対応できる応急手当指導員もいますので、安心して活動ができるなど感じています。

(資料 5/7 ページ)

伝えたいことはどうしても文字になりがちですが、イラストにすることによって伝わりやすくなると考え、参加する子どもたちに守ってもらいたい約束をAIでイラスト化して使用しました。中央の右に馬が帽子をかぶって、手にあんまきのお土産を持っているキャラクターがいますが、これはAIが文章から作成した“ちりゅうび”です。著作権の点に関して調べてみたところ、AIに画像を取り込み改変させたものではなく、AIがつくった画像であるため、著作権上は問題がないようです。今は、子どもたちに、このキャラクターの名前を覚えてもらおうと思っています。

画像にしてよかったと思うことですが、左下に「やくそく1、おたがいにやさしい気持ちで」というイラストがあります。2人で水やりをしています。女の子を男の子が助けている様子が描かれています。これを見た瞬間、伝えたいイメージが的確につたわるなど思いました。また右下に「いっしょに楽しもう」と書かれたイラストがあります。英語の表記も取り入れたのですが、年長のお子さんが英語に興味を持ってくれました。イラストで興味関心の幅が広がることも、メリットだと感じました。

(資料 6/7 ページ)

活動のあとには、子どもたちに記録を残させるようにしました。小学生のお姉ちゃんと、幼稚園の男の子が参加者でありましたが、お姉ちゃんは「花の交配をしたい」、幼稚園の男の子は「花しょうぶの博士になりたい」とかわいい感想を書いてくれました。今回は保護者同伴であったため、必要性は薄かったのですが、保護者向けに活動内容を報告するレポートも用意をしようと思っています。

(資料 7/7 ページ)

お子さんと活動をするということで、安全には配慮していきたいと思っています。保険には当然入るようにしています。加えてアレルギーの有無を把握させていただき、事故やケガに備えて、応急処置の同意や連絡体制の構築をしっかりとしたいと思い、必要な情報や同意を得られるよう、申込の段階で尋ねるようにしました。今後も参加者を増やしていきたいと思っています。もし、参加していただけそうな子たちがいましたら、ぜひお声掛けをお願いします。

【委員】【知立障がいフォーラム 「リングC」】

草の根フェスティバルについてお話をさせていただきます。草の根フェスティバルは福祉健康まつりに合わせて開催をしております。今回で29回目を迎え、今年度は12月にパティオ池鯉鮒で実施をし、かきつばたホールの大きな舞台の中で、障害を持った方々で朗読劇（創作劇）を披露しました。草の根フェスティバルがはじまった当初は、福祉体育館の中の身体障害者福祉センターの部屋で実施していました。現在と比較しますと、当時は参加者だけで楽しむという性格が強かったのですが、今では外に出て、より広く知っていただくよう、発信をすることに意識が向くようになったと思います。私はリングCの代表者として、文化芸術推進会議に出席をさせていただいていますが、様々な方と議論をさせていただく中で、障害を持った方でも、文化芸術の担い手になることができるし、表現して発信をしていくことに意味があると思うようになり、今回の創作劇を企画させていただきました。

創作劇は、絵本作家さんのお力をお借りして脚本を作成し、目が悪い方、耳の悪い方、障害の程度は人それぞれですので、映像も織り交ぜながら、楽しめるように工夫をしていきました。

脚本を作る際には、知立を発信したいと思いがかりました。色々考えたのですが、池の中の鯉、鮒を題材にすることに決めました。知立は、昔、池、鯉、鮒の漢字を使っていました。鯉や鮒は池の中で生活をしており、限られた範囲で、活動が制限されていることは、我々と重なると思ったことが理由です。脚本は、御手洗池の鯉や鮒が、どこからか聞こえてくるお囃子の音に気付き、知立まつりを人伝いに聞いて、楽しむというストーリーにしました。実施をする上で、知的障害など、セリフを覚えて練習をすることが難しい子たちも多く、どのように舞台を作り上げるか悩みましたが、セリフを言う方を別に用意する朗読劇とすることで、誰でも舞台に立てるようにしました。

親御さんのサポートが必要な子もいましたが、親御さんが黒字になるのではなく、親御さんも衣装を着て舞台に立ち、みんなで創作劇を作り上げました。

来場する方を増やす工夫として、竜北中学校の和太鼓の演技を、草の根フェスティバルの中に取り入れることもしましたが、和太鼓が終わったら帰ってしまう方も多く、寂しい思いもしました。

ただ、先ほどの「ちりゅうキッズ発信隊」の話にあったように、0でなかったことを前向きにとらえたいと思っています。この舞台を通じ、障害を持った方でも、自己表現ができ、発信をすることで、何を伝えたかったか理解していただける方を一人でも増やすことができれば本望だと思っています。劇が終わったあと、劇に出演した親子が、福祉健康まつりの会場を見て回っていた時に、声をかけられたそうです。若いお母さんに「さっき劇にでていたお子さんですね、さっきの劇で知立の成り立ちを初めて知りました」と言われたそうです。そのことを聞いたとき、伝えたいことが、表現を通じて確かに来場者に伝わっていたことがわかり、来場者は少なくとも、開催した意味があったと思いました。

劇に出演した親御さんや、脚本を書いていた作家さんも、来場された方からの声掛けがあったことに、大変うれしそうにさせていただき、劇に関わった方の気持ちに変化があったことも、大変意義があったと感じました。

劇をしてみようと思った一つのきっかけは、文化芸術推進会議に参加をさせていただいたことです。次はどのような活動を展開するか、まだ分かりませんが、この会議での気づきや、みなさんのサポートを今後活かしていきたいと思っています。

【委員】【NPO法人みらい】

知立市から委託を受けて、多文化子育てサロンを運営させていただいております。このサロンは、外国人の方が多く集まる子育てサロンで、月に一度、みんなで集まる機会を設けております。今月は文化課に協力をいただき、図書館で外国人のお母さんでも、気軽に図書館に来られることを文化課の方から教えていただきました。日本語のできる親御さんもおられますが、できない方もいます。日本語ができて、施設の使い方が分からず躊躇してしまう方もいます。こうした状況を改善すべく、私たちの団体では、外国人の方に発信をして、育児情報を繋げていきたいと思っています。来月は保健センターで活動予定です。この会議に参加し、文化芸術に関するイベントや情報が溢れていることを実感しています。私たちとしましては、こうした情報を集め、外国人の方に知っていただけるよう、努めていきたいと思いました。

(委員からの質疑応答など)

【知立市】(事務局)の実績報告について

(質問1)

【委員】資料4の施策の進捗確認シートについて質問をさせていただきます。施策の実施状況の中で「未実施」となっている事業が見られます。簡単に構いませんので、どのような理由で「未実施」なのか説明いただけないでしょうか。

(質問1に対する回答)

【知立市】(事務局)資料4の3ページ、基本施策2の中に「歴史的建造物の調査」という項目がございます。こちらは、築50年以上で、特徴的なもの、あるいは市にとって重要であると考えられる建造物について調査を行うというものです。過去におきましては、東海道沿いの店舗等を調査したこともありましたが、毎年調査を行っているものではなく、令和6年度においては調査対象がありませんでした。また資料4の同じ3ページ、「(ロビー等での)ミニ展示」であります。展示にふさわしい資料の有無によってその都度実施しており、毎年実施が決まっているものではございません。令和6年度につきましては、未実施となりました。しかしながら、今年度におきましては、朝ドラの“あんぱん”にあわせまして「やなせたかしと知立」という展示を行わせていただきました。

(質問2)

【委員】資料4の施策の進捗確認シートの2ページの上部に③スキルアップの支援という項目で、研修が多数記載されていますが、未実施となっている項目もあります。この点について何かご事情が御ありなのでしょうか。

(質問2に対する回答)

【委員】ご質問いただきました「PW研修」の「PW」は私たちの団体、パティオウェーブに関する記載となります。パティオウェーブでは、文化会館での鑑賞のサポートを主な活動内容としており、活動をしていくうえで役立つような研修の機会に参加していきたいと思っています。ご指摘の舞台技術の研修は、未実施となっておりますが、昨年度について言えば、直接舞台装置を会員が操作し、お手伝いをさせていただく場面はございませんでした。研修は、他団体との交流の機会にもなりますので、今後も企画していきたいと思っております。

各団体の実績に対する意見、感想について

【委員】【知立障がいフォーラム 「リングC」】の「草の根フェスティバル」に関連して、パティオ ウェーブさんではホールボランティアや、技術支援をされていますが、連携できるとさらにいいと思います。

今日の会議では、AI の話題もあがりました。人だけでなく AI の力を借りるという手段もあります。障害を持った方の中には絵を書くのが好きな方も多いいと思います。AI によって、絵を動画に仕上げ、表現の幅を広げることができますので、この会議で共有できた情報や知恵を次に活かすことができればよい展開になると思います。

【委員】 AI の活用が広がっていますが、文化芸術の分野においては、AI の容易性に頼りすぎると、画一的な作品ばかりが生み出されます。文化芸術は、オリジナリティ、その人にしかできないこと、表現できないことに価値があることを忘れてはいけません。今の話で言えば、障害を持った方にしかできない表現を大切にす視点は持っていないといけないと思います。

文化芸術は、積み重ねで成り立っています。積み重ねということは、残していかななくては伝わりません。文化芸術の振興のためには、こうしたことをこの会議で考えていくべきではないかと思いいます。知立市には、障がい者や外国人といろいろな方がいます。その方々の活動や作品を記録収集して残す仕組みがあればいいと思いいます。

いまここに『はじめての知立市史』があります。この本は知立の歴史を簡潔にまとめた本ですが、一つ抜けているものがあります。「文化芸術」です。知立で輩出した、文化人や芸術家、作品や行事など、まとめて分かるような冊子があるとよいいと思いいます。冊子にできなくとも、記録を集めてデータベース化することはぜひ考えていただきたいと思いいます。

【委員】 データベースについては、著作権の問題もありますので、公開できるかは分かりませんが、来館すれば閲覧はできるなど対応の仕方で解決できるとおもいます。検討をお願いします。

3. その他

次年度の会議の実施について

閉会